



ケイティケイ 株式会社

2013年8月期 第2四半期 決算説明会

2013年4月5日



Listed Company 3035

- ご参考 **株式会社青雲クラウンとの経営統合について**
 - .2013年8月期 第2四半期業績**
 - .2013年8月期 業績予想**
 - .2013年8月期 事業戦略**

ご参考 株式会社青雲クラウンとの経営統合について

ケイティケイ株式会社を親会社、株式会社青雲クラウンを完全子会社とする
「株式交換による経営統合」を2012年12月21日を効力発生日として実施

お客様のニーズに対し、よりの確でスピーディーにお応えできる体制の構築が可能に

期待される
シナジー

バリューチェーンの川上から川下まで一気通貫する
「垂直統合型ビジネスモデル」の確立

ケイティケイ株式会社

- ・全国23拠点における人的販売力
- ・約12,000社の法人顧客

販売

株式会社アイオーテクノ

- ・リサイクルトナー
約370,000本／年の生産能力
- ・各種検査機器による品質管理能力

生産



株式会社青雲クラウン

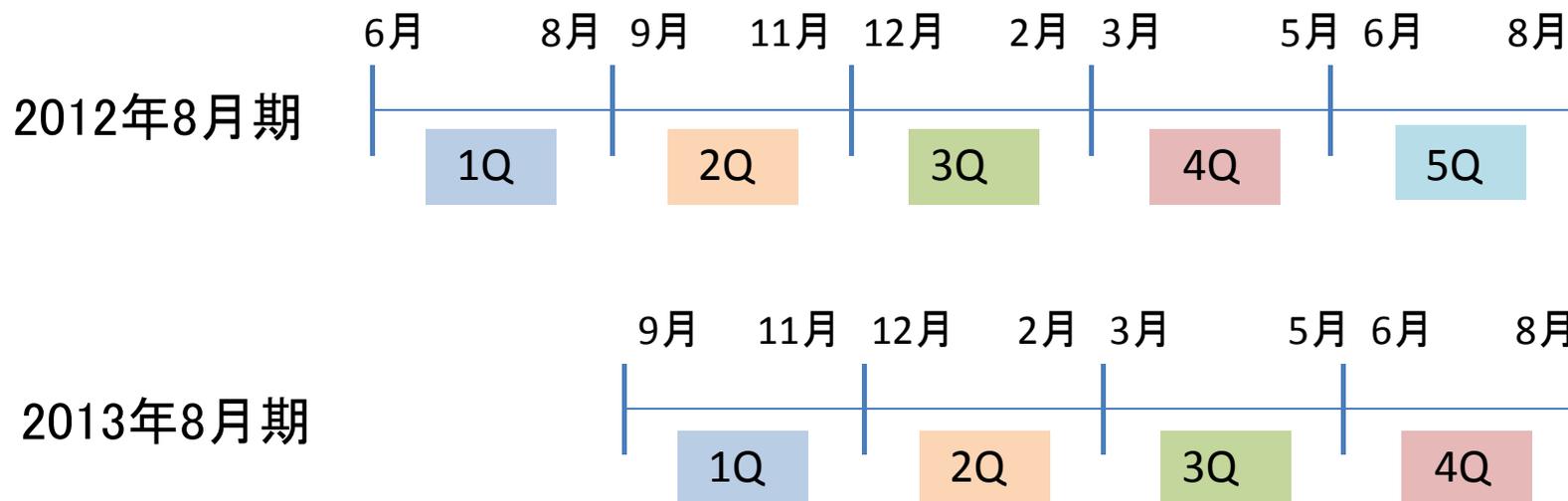
- ・メーカーと太いパイプを持つ仕入調達力
- ・ITとロジスティクスを融合したプラットフォーム

調達・
物流

.2013年8月期 第2四半期業績

ご留意事項

決算期の変更により2012年8月期は15か月決算となっております。またこれに伴い、2013年8月期につきましては、前年同期との比較対象となる期間が異なります。



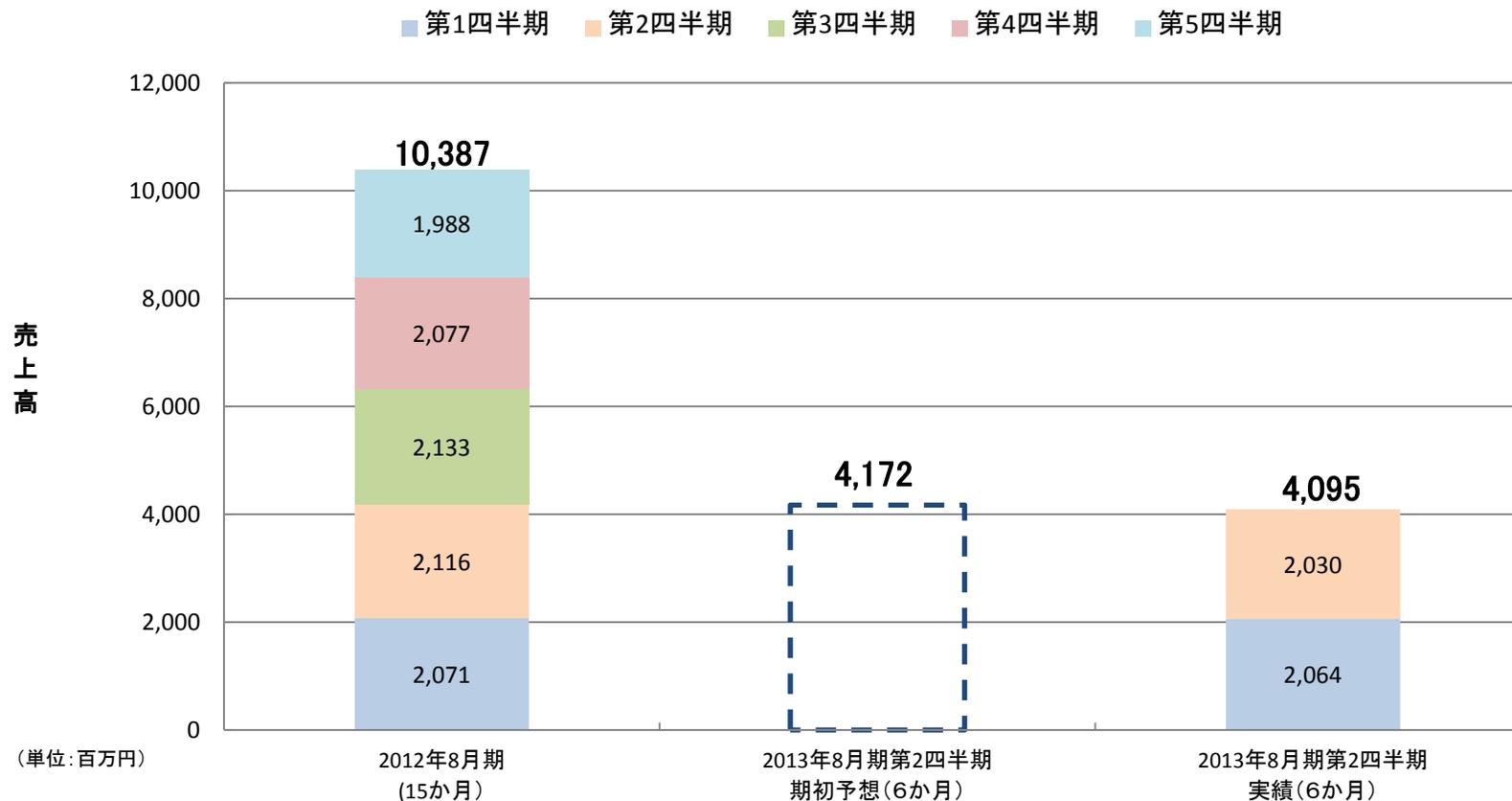
2013年8月期第2四半期の業績<連結>

(単位:百万円)

	2012年8月期 第2四半期 (2011年5月21日～ 11月20日)	2013年8月期第2四半期 (2012年8月21日～2013年2月20日)				要因
	実績	期初予想 (2012年10月4日)	修正予想 (2013年3月22日)	実績	期初予想 差異	
売上高	4,188	4,172	4,095	4,095	△76	企業の節約志向の恒常化による消耗品の買い控えの影響、特に主力商品であるリパケットナーの販売本数減による売上の減少
サプライ事業	4,052	4,042		3,974	△67	主力商品であるリパケットナーの販売本数減による売上の減少
ソリューション事業	136	129		120	△8	震災特需の反動とクラウド型サービスへの契約変更に伴う既存サービスの売上減少
売上総利益	1,080	1,075		1,016	△58	高収益商品であるリパケットナーの販売本数減による原価率の上昇
販売費及び一般管理費	1,058	1,059		1,019	△40	グループ全体でのコスト削減努力による圧縮
営業利益	21	15	△2	△2	△18	高収益商品であるリパケットナーの販売本数減による利益率への影響により赤字計上
経常利益	20	15	△1	△1	△17	特別利益(負ののれん発生益)26百万円の計上
売上高経常利益率	0.5%	0.4%		—	—	
四半期純利益	7	15	24	24	8	法人税調整額(△7百万円)の計上

注) 当社は2012年8月期より決算期を毎年5月20日から毎年8月20日に変更しております。これに伴い、2013年8月期第2四半期と比較対象となる2012年8月期第2四半期の期間が異なるため、2013年8月期第2四半期の対前年増減率については記載しておりません。

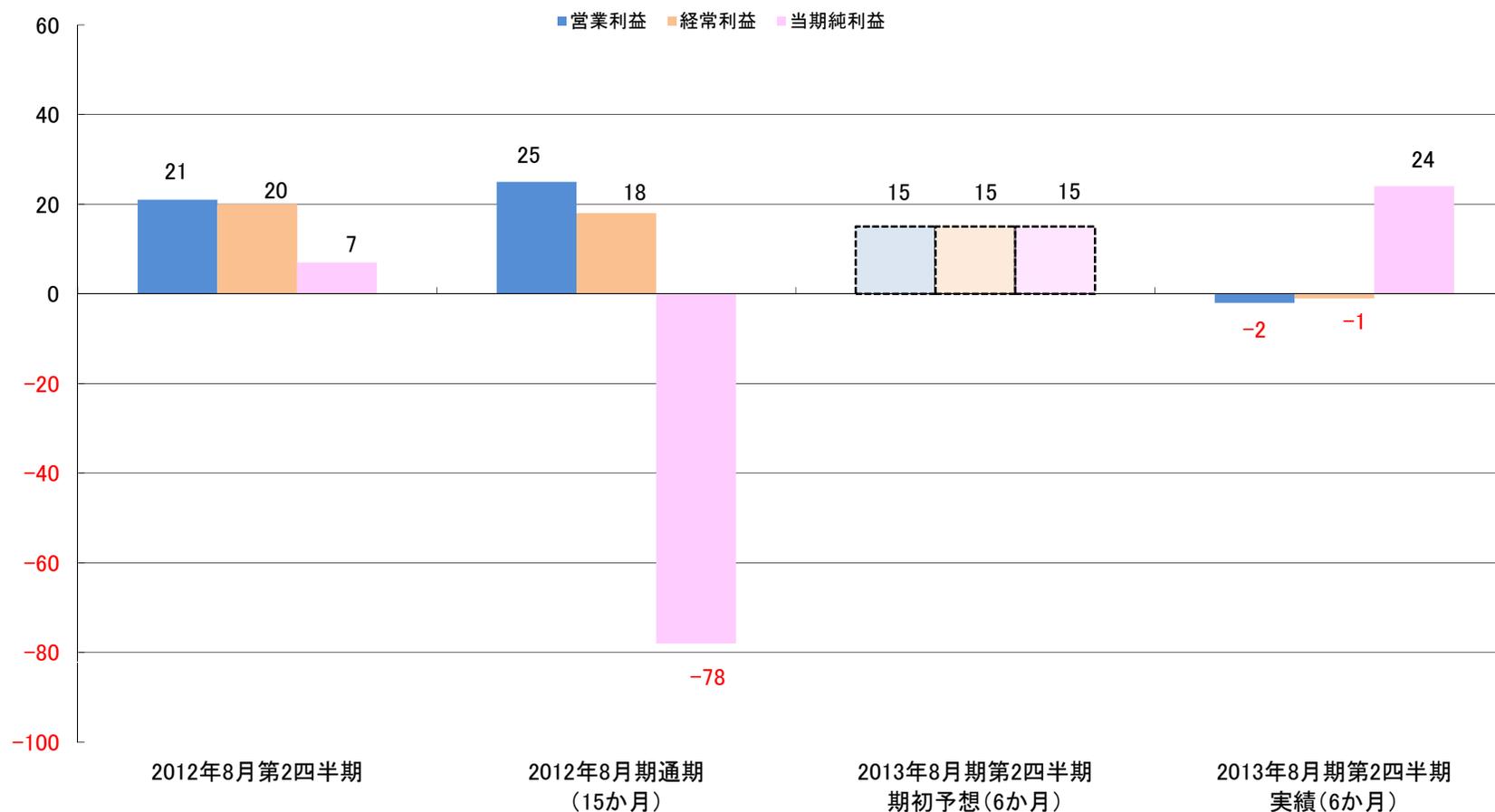
業績の推移<四半期毎の売上高 連結>



注) 当社は2012年8月期より決算期を毎年5月20日から毎年8月20日に変更しております。
 そのため、2012年8月期は15か月の変則決算となっております。

売上高は、主力商品であるリパクトナーの販売本数減少(前期第2四半期比90.3%)などにより、期初予想を下回った。

業績の推移<営業利益・経常利益・当期純利益 連結>



(単位:百万円)

主力商品であり高収益商品でもあるリパケットナーの販売本数減少が利益を圧迫、営業損失は2百万円、経常損失は1百万円となった。四半期純利益は、特別利益(株式会社青雲クラウンの子会社化に伴う負ののれん発生益)26百万円の計上により、24百万円となった。

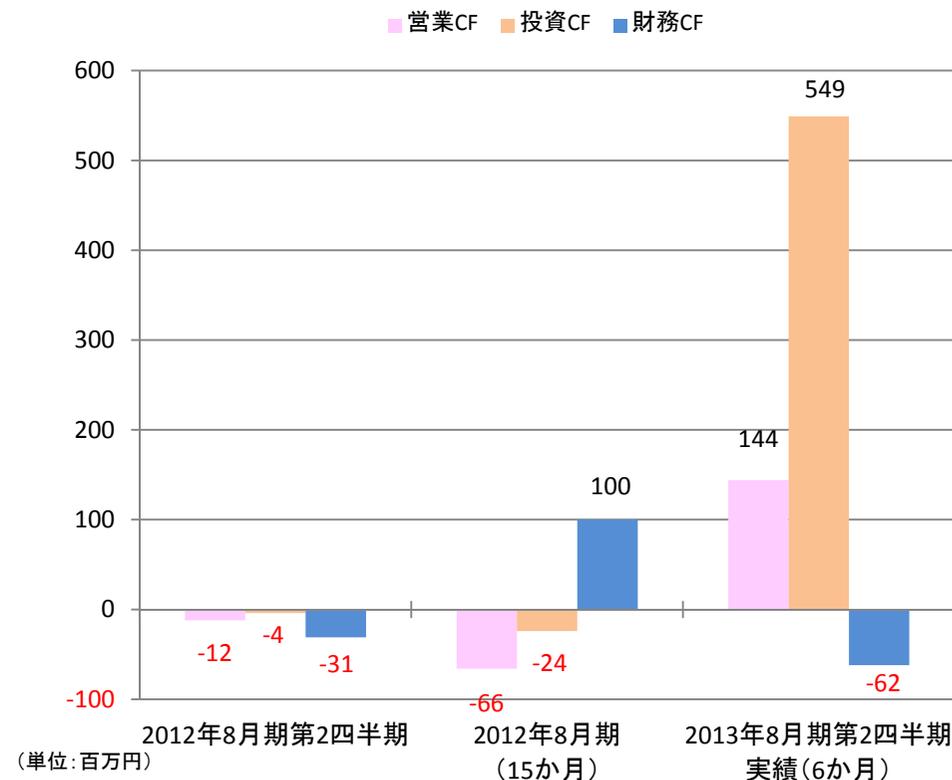
貸借対照表とキャッシュフロー<連結>

■ 貸借対照表

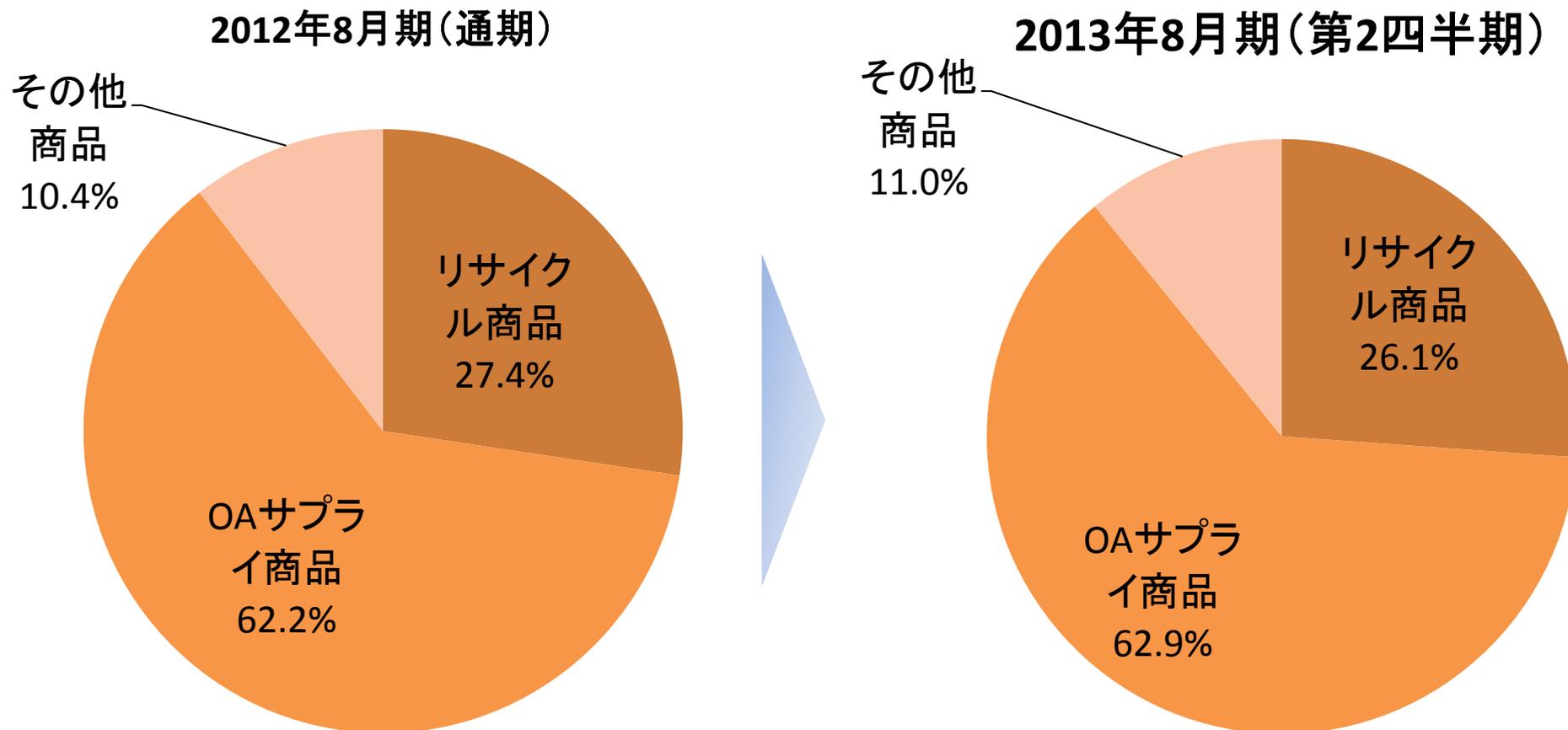
(単位:百万円)

	2012年8月期		2013年8月期
	第2四半期	通期	第2四半期
流動資産	2,491	2,320	5,361
(たな卸資産)	225	218	644
固定資産	1,781	1,781	2,549
資産合計	4,273	4,101	7,911
流動負債	2,072	2,027	4,919
固定負債	154	127	602
負債合計	2,227	2,154	5,522
純資産合計	2,045	1,947	2,388
負債純資産合計	4,273	4,101	7,911

■ キャッシュフロー



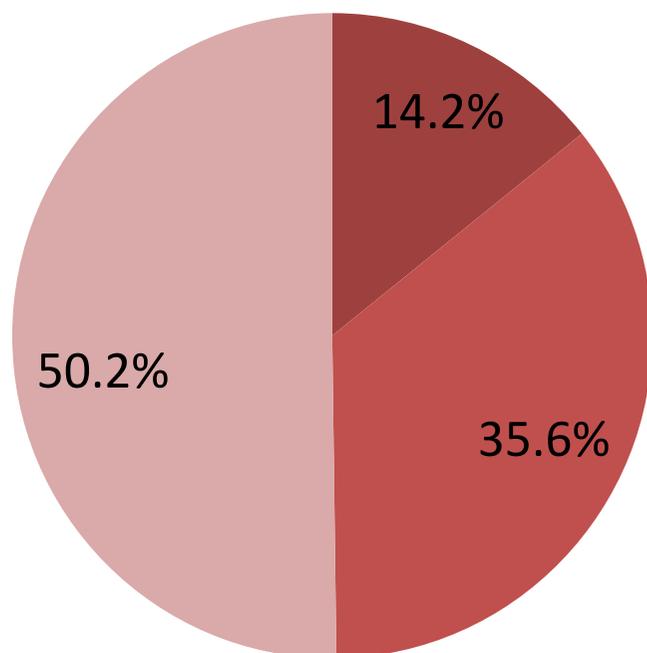
2012年12月21日を効力発生日とする株式交換(株式会社青雲クラウンの完全子会社化)に伴い
資産・負債・純資産は増加した。
投資活動によるキャッシュ・フローは連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入563百万円が発生した。



リパクトナーの販売本数減により、リサイクル商品”の売上高構成比が低下、また、一般事務用品の販売が好調な“その他商品”の売上高構成比は上昇。

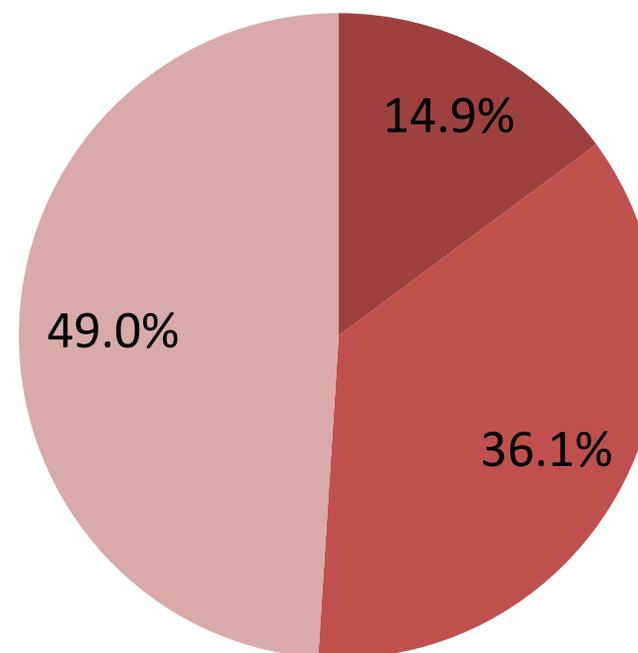
2012年8月期 通期

- WEB受注(カスタマイズはっするネット)比率
- WEB受注(はっするネット)比率
- WEB以外売上比率



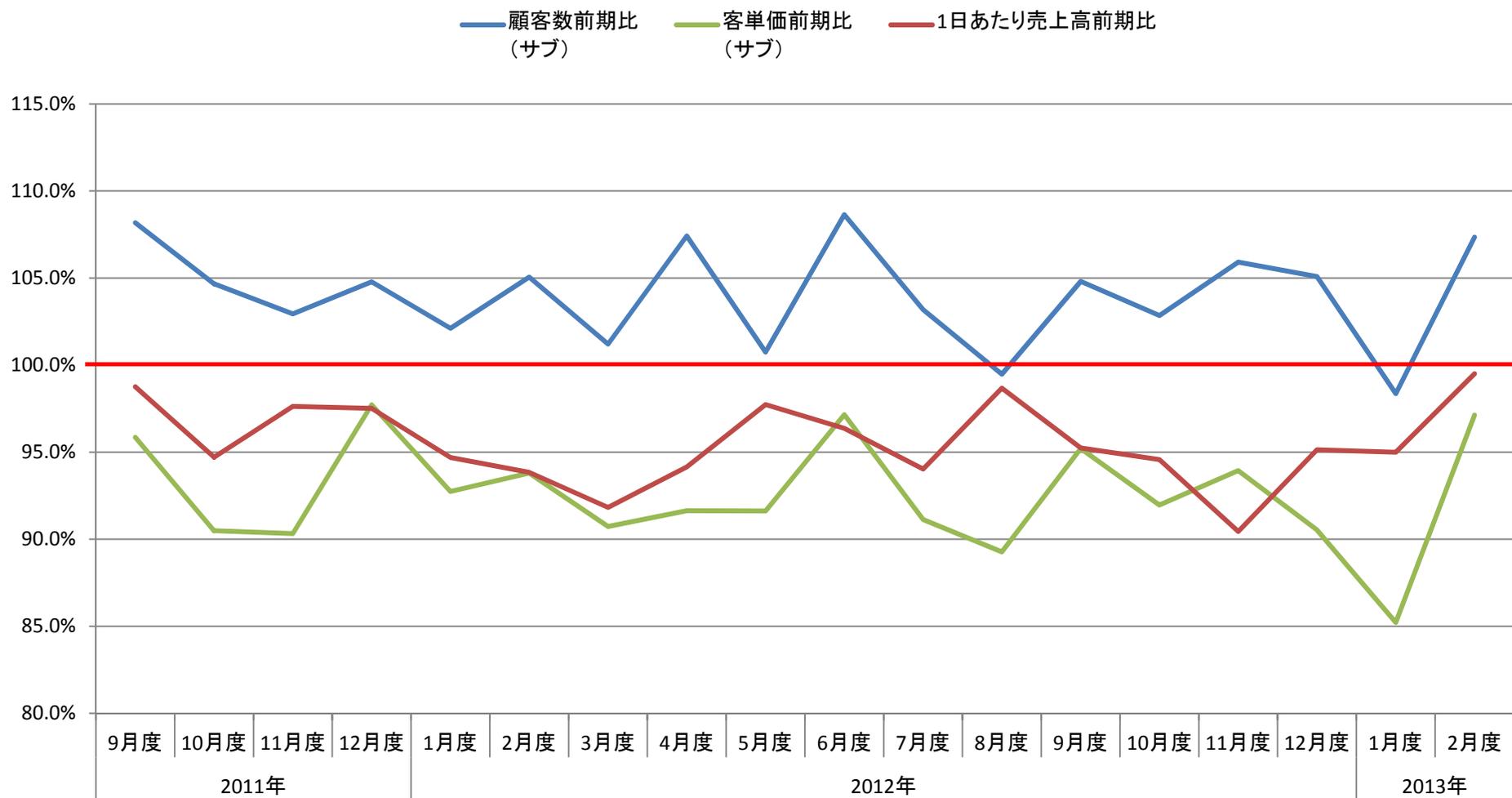
2013年8月期 第2四半期

- WEB受注(カスタマイズはっするネット)比率
- WEB受注(はっするネット)比率
- WEB以外売上比率



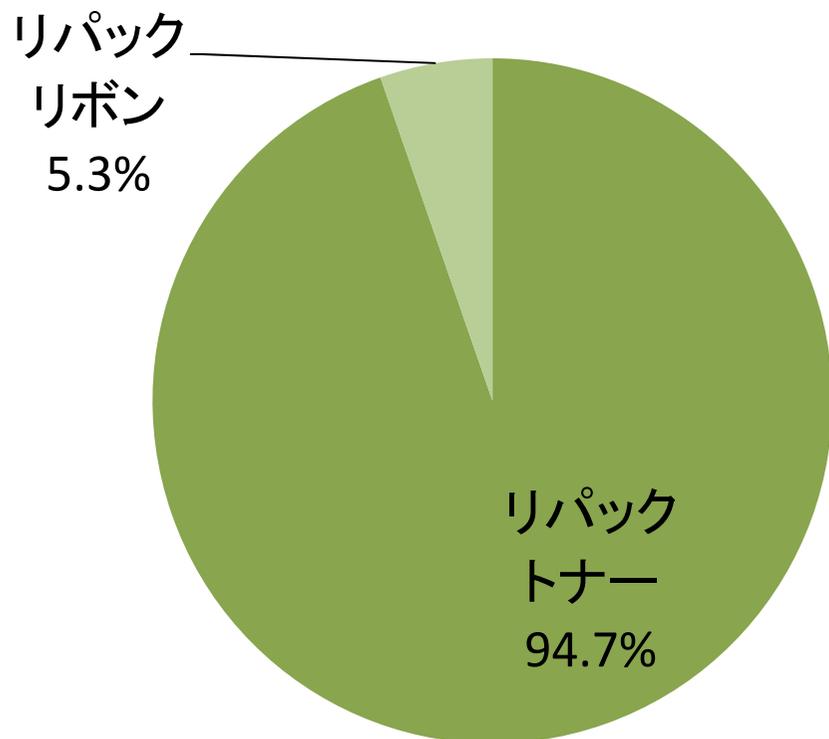
カスタマイズはっするネットへの切り替えを促進した結果、売上高全体に占めるカスタマイズはっするネット比率が上昇した。

顧客月次動向(対前期比)

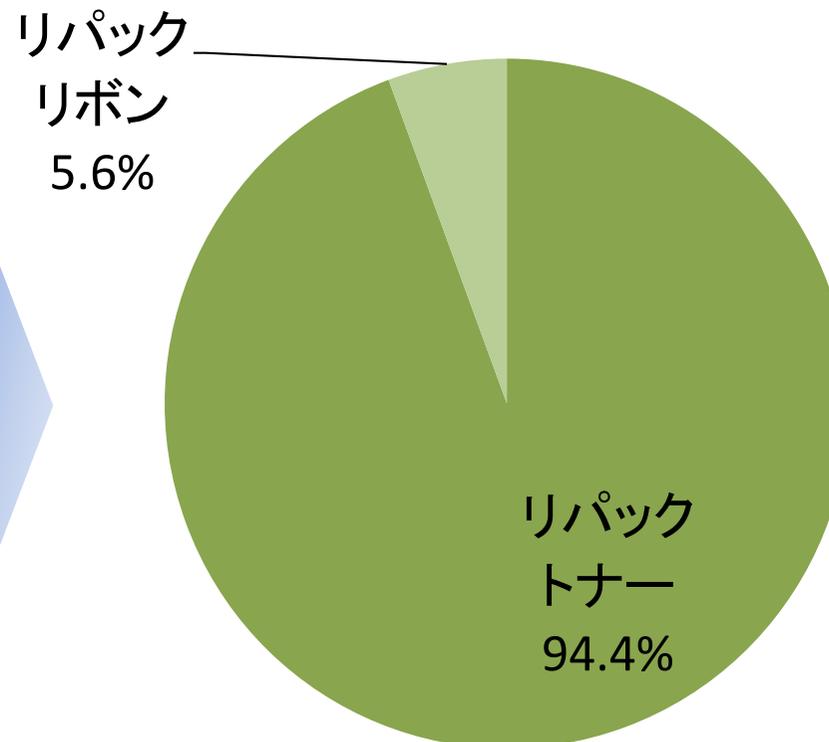


顧客数は増加するものの、主力のリパクトナーの販売本数減により、客単価、1日あたり売上高は減少した。

2012年8月期(通期)



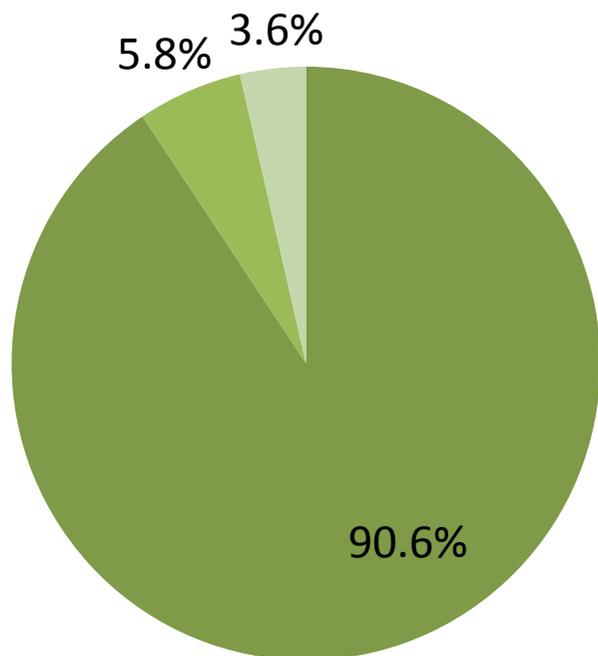
2013年8月期(第2四半期)



リパクトナーは平均販売単価は前年を維持したものの販売本数減(前年第2四半期比90.3%)により、リパック商品全体の売上高に占める比率が低下した。

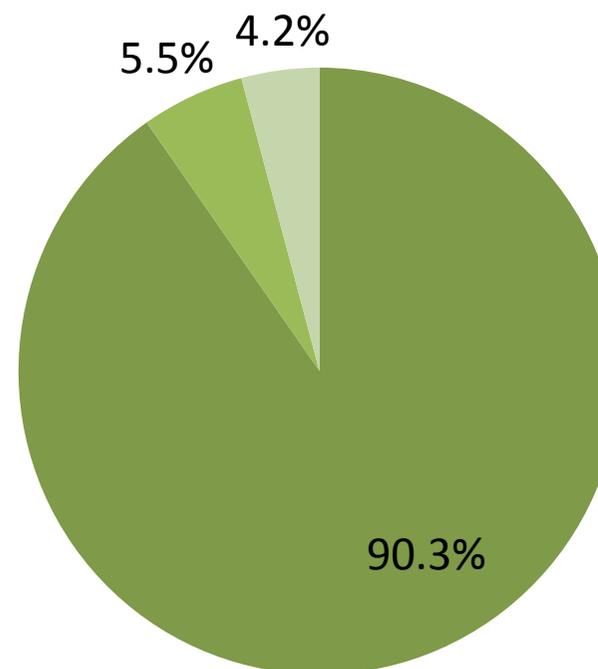
2012年8月期(通期)

■ 純正トナー ■ 汎用トナー ■ 輸入純正トナー



2013年8月期(第2四半期)

■ 純正トナー ■ 汎用トナー ■ 輸入純正トナー



OAサプライ商品<新品トナーカートリッジ>の内訳では、輸入純正トナーの販売本数増加により全体に占める比率が上昇した。

.2013年8月期 業績予想

2013年8月期通期業績の見通し<連結>

(単位:百万円)

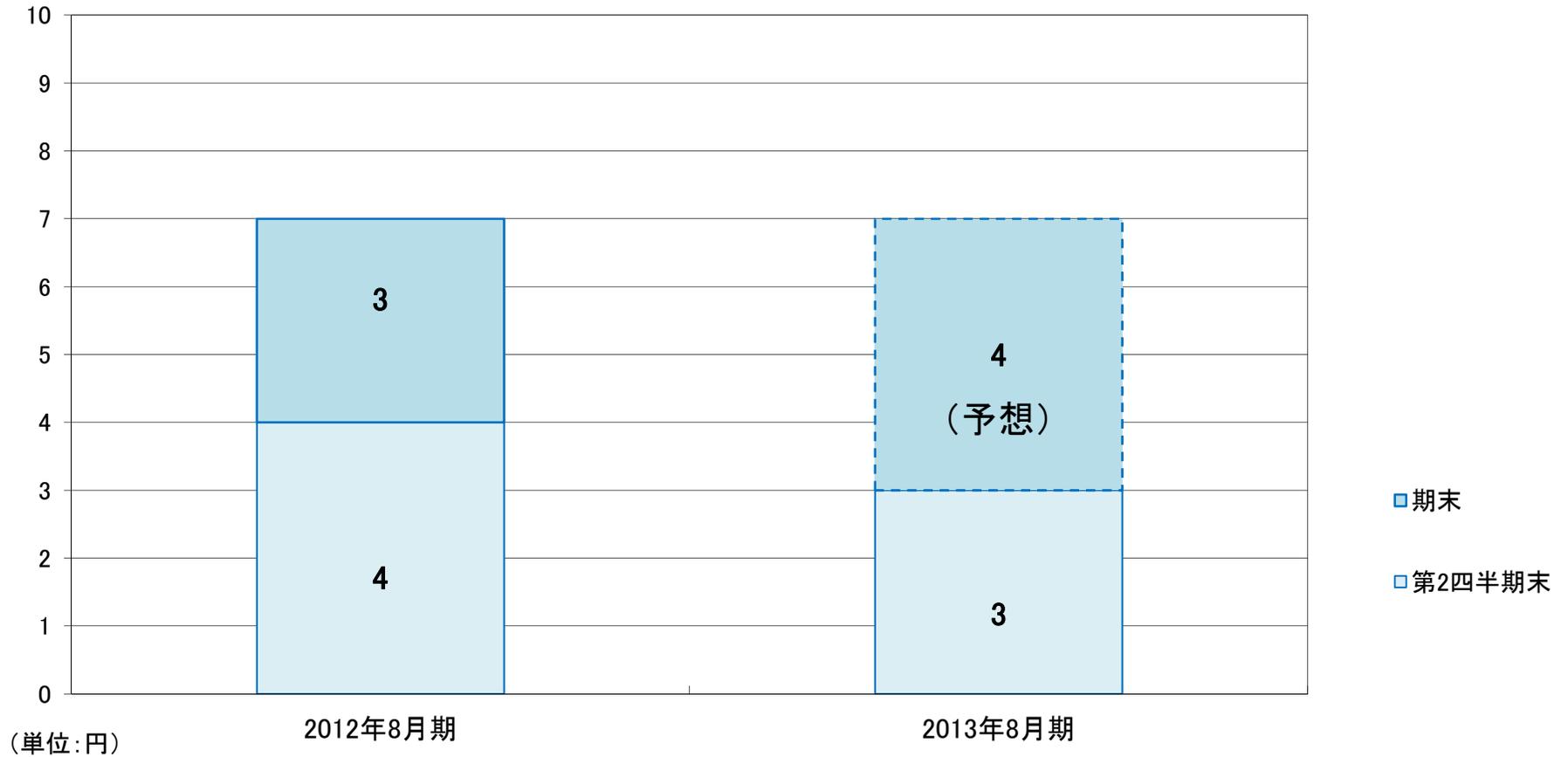
	2013年8月期(通期) (2012年8月21日～ 2013年8月20日) 見通し
売上高	12,892
売上総利益	2,890
販売費及び一般管理費	2,757
営業利益	132
経常利益	117
当期純利益	46

注) 1. 2012年8月期は決算期の変更(毎年5月20日から毎年8月20日に変更)により15か月決算となっております。

2. 2013年8月期の通期見通し<連結>には、2012年12月21日に当社の完全子会社となりました株式会社青雲クラウンの2013年6月期下半期(2013年12月21日～2013年6月20日)の業績が連結されております。

**収益向上に向けグループ連携を強化し、主力商品である「リパクトナー」の拡販をめざす。
「クロスセル」「アップセル」を推進し、顧客単価アップにつなげる。
垂直統合効果によるコスト圧縮を計る。**

1株あたり配当金



第2四半期の業績の修正に伴い、1株あたり4円と発表としていた第2四半期末の配当を1円減配の3円に修正。
また期末の配当については、業績の回復を見込んでおり従来予想の4円を据え置く。
今後も実績ベースによる安定的な配当の継続を基本とし、事業展開を勘案した上で、業績に対応した配当を実施する。

.2013年8月期 事業戦略

経営統合について



ケイ ティ ケイ 株式会社



株式会社 青雲クラウン

---2012年12月21日経営統合完了---

垂直統合型ビジネスモデル 《KICS》 の実現



グループ内での一気通貫が可能になり、新たな価値の連鎖が生まれる土壌ができあがる。

相互のシナジー創出へ。

①顧客基盤の強化

- ・メーカー交渉力の強化
↳取扱アイテム数の拡充、価格対応力
- ・販売チャネルの拡大
↳新チャネルへのリパクトナー販売
- ・顧客数の増加

②プラットフォームの共有

- ・物流の共通化・合理化
- ・業務効率化の促進
↳トータルコスト削減
- ・クラウングループとの連携

具体化に向け、下半期は構造改革期間の位置づけ。



【本資料のお取扱いについて】

本資料は、ケイティケイ株式会社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は、過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定及び所信に基づく見込みです。

また、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度等がありますが、これらに限られません。）を含んでいます。そのため、当社は将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なる可能性がありますので、ご承知おき下さい。